

ごあいさつ

助成研究成果集第28号の発行に際し、一言ご挨拶申し上げます。

当財団は、オムロン(株)の創業者であります故立石一真が卒寿を迎えましたのを機に、科学技術の分野で「人間と機械の調和」を促進することを趣意として平成2年(1990年)に設立しました。そして本年は第30回目の助成金の交付をとり行うことができました。設立以来の助成件数と助成金は、立石賞も含めて累積でそれぞれ1,285件、約23億8千万円となりました。これも日頃からの皆様のご支援の賜と感謝いたすところでございます。



本成果集の発行は成果普及活動のひとつとして行うもので、助成対象となった研究課題の成果を、財団設立の趣意に沿って方向を同じくする研究者や研究機関と共有することを目的とするとともに、研究者の相互交流の一助となることを願って、毎年実施しております。今回ご寄稿いただきました研究者の皆様をはじめ、ご協力いただいた方々に厚く御礼申し上げます。

さて、隔年で実施している立石賞については、この6月末で募集を締め切り、来年5月の第6回の表彰に向けて審議を開始しております。今回も素晴らしい業績をあげられた研究者が選ばれると確信し、楽しみにしております。本成果集に掲載されている研究者の皆様におかれましては、将来の立石賞を目指して、引き続き研究に邁進されることを期待しております。

ところで、今日の日本は、AIやロボティクス、自動運転技術など将来に向けた技術革新が産官学連携のもと、進められています。最近では、当財団が目指す「人間と機械の調和や協業を促進する科学技術分野への各研究開発が、世の中において積極的に推進される一方で、国際的な共通課題である持続可能な社会の実現に向けた取り組みが広がりつつあります。更にいつ襲ってくるかわからない大災害の脅威にさらされていますし、少子高齢化も確実に進んでいます。これらを克服し、日本が活力を再び取り戻し国際社会に貢献するためには、卓越した科学技術の力を更に高めることが求められています。当財団は、民間の立場から、微力ながらも日本の科学技術の発展に対して寄与していく所存であり、今後も研究者の皆様にも夢を託して参ります。

今後も引き続き、より一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2019年10月

理事長

立石義雄